開栓日誌の漫画の感想レビューに関するアンケート調査結果

■アンケート調査概要

調査目的	開栓日誌の漫画の感想レビューに関するアンケート調査
調査対象	開栓日誌を読んだことのある20代～50代の男女116名
調査期間	2025年5月20日～2025年6月10日 2025年6月13日 2025年6月30日 2025年7月12日～2025年7月13日 2025年7月26日 2025年8月9日 2025年8月23日 2025年9月13日 2025年9月27日 2025年10月11日 2025年10月25日 2025年11月8日 2025年11月22日 2025年12月13日 2025年12月28日 2026年1月10日 2026年1月24日 2026年2月14日 2026年2月28日 2026年3月14日 2026年3月28日 2026年4月10日 2026年4月25日 2026年5月8日 2026年5月23日 2026年6月13日 2026年6月26日 2026年7月11日 2026年7月25日 2026年8月8日 2026年8月22日 2026年9月11日 2026年9月26日 2026年10月10日
調査方法	インターネット調査
モニター提供元	ランサーズ

データ使用サイト	https://glucks-web.co.jp/manga-zenkan/kaisennisshi/

■アンケート項目

Q1：年代と性別を教えて下さい。
Q2：開栓日誌を実際に読んだ感想を教えて下さい。

Q1：年代と性別を教えて下さい。

20代男性	1人
20代女性	0人
30代男性	83人
30代女性	6人
40代男性	0人
40代女性	25人
50代男性	1人
50代女性	0人

Q2：開栓日誌の感想を教えて下さい。

『開栓日誌』1巻	詰まりであればなんでも解消。詰まっていたものがスムーズに流れるようになったらスカッと快感ですがそれを専門にしている職業の持ち主とは。これまでにない設定が面白いです。詰まりは女性の詰まりでも解消って、水道管とかとはまた別物でしょう。結局ただマッサージをしているだけで終わってしまい、どうやって解消するのか気になるところです。
『開栓日誌』1巻	冬馬は表向きではいろんな詰まりを直す仕事をしているのですが、実は裏の顔もあるという意外性が良かったです。冬馬が訪問した家の奥さんと良い感じになるのですが、その奥さんの旦那さんは冬馬の先輩だったりと、複雑な人間関係が展開していくところも注目ポイントです。二人ともそんな背徳感を楽しんでいるようで、こちらもドキドキしてしまいました。
『開栓日誌』2巻	冬馬がいつも通り洗面台の詰まりを直す仕事を終えたあと、その家の奥さんと良い感じの雰囲気になっていくので見ててドキドキしました。人妻なので冬馬が手を出してはいけないからこそ、緊張感がどんどん高まっていくのも良かったです。冬馬も奥さんにアプローチを仕掛けるのが上手く、優しく慰めながら距離を縮めていく辺り策士だなぁと思いました。
『開栓日誌』2巻	腰の痛みを改善する冬馬のマッサージ、ぜひ自分も受けてみたいものです。彼の手はまさしくゴッドハンドですね。自分でどうにかしようとしてもうまくいかず結局呼び出す奥さん。どこでこんな技能を身に着けたのか冬馬の過去が知りたくなりますが、開栓というのは専門家ならではのお仕事ってわけです。それにしても、冬馬と子供というのもおもしろい。
『開栓日誌』3巻	冬馬と拓哉の奥さんが、ついに禁断の関係へと進んでしまったので読んでてドキドキしました。拓哉には何とか気付かれませんでしたが、いつかバレてしまいそうな緊張感が漂っていました。冬馬はどんな詰まりを取ることもできる能力を持っていますが、まさかそれが人間相手にもできるとは思わなかったので結構ビックリしました。この冬馬の能力がこれからもどんどん使われていきそうで、楽しみになりました。

『開栓日誌』3巻	触っただけで膀胱炎が分かるって、しかもあっという間に開栓して。やり方はともかく冬馬が名医であることは確かですね。女性限定なのんでしょうか。膀胱炎に悩む男性も多いでしょうし、そういうのを直してあげれば医者として儲けられるのでは。それにしても、のんきにしている拓也がかわいそう。彼がシャワーを浴びてる隙にとかめちゃくちゃスリリングです。
『開栓日誌』4巻	個人的に最初のシーンが最高です。旦那さんがいつ来るかわからない状態でそういうことをするって、すごくドキドキしちゃいますよね。個人的には冬馬みたいな男性にされたいなぁと奥さんに自分を重ねてしまいました。翠とのことも、いろいろ進んでいったお話だと思います。翠はすごく好きなキャラで、ちょっとぶっきらぼうなところが魅力的でした。
『開栓日誌』4巻	拓也が鈍感すぎて涙が出る。そして冬馬の次のターゲットは翠。せっかくのアプローチが気持ち悪いって、翠よよく言った。ちょっと笑えてしまいました。確かに冬馬は気持ちが悪い。特に彼の妄想シーンにはドン引きです。椅子を匂ったりって、ただただ職人技で開栓をしてるだけかと思ったら妙に男っぽい変態だった。彼の見方がまた変わりました。
『開栓日誌』5巻	拓哉の奥さんにも、翠にも積極的にアプローチする冬馬が印象に残る回でした。冬馬は自分の欲を満たすためなら、もはや相手が誰でもいいような感じがします。その一方で、結構狡猾な方法で相手の懐に入り込んだり、冬馬の頭が冴えてる一面も描かれているのが良かったです。翠はかなり冬馬を警戒しているようなので、どうやって攻略していくのか楽しみです。
『開栓日誌』5巻	無理やり詰まりを何とかしようとする冬馬、どうなんでしょう。更にはその強烈さに充てられてなんとかしようと近所のおばさんで発散って。そんな相手として選ばれる近所のおばさんがかわいそうなんですけど。それだけ翠一筋ならまだしも、拓也の奥さんに対してもアプローチをかけていて。そのためには策を選ばない男ですね。
『開栓日誌』6巻	冬馬と拓也の奥さんは結構危険な領域まで進んでしまっていて、拓也に見つかったら一貫の終わりという緊張感があります。普通だったら止めるはずの状況でも冬馬はどんどん先に進んでいくので、もはや笑ってしまいそうになりました。でも冬馬がぶっ飛んでいるからこそ、こちらの予想できないような展開を見せてくれて、この作品がさらに面白くなっているんだと思います。
『開栓日誌』6巻	旦那が眠っているのに、その横でって。究極のどきどきです。拓也よ寝ぼけてる場合じゃあないでしょう。結局気が付かないままにまた眠ってしまった拓也が哀れというか悲しすぎる。そして続く開栓作業。拓也の奥さんに有無を言わさずどんどんと続いていく冬馬による詰まりの解消作業。その淡々とした職人技が見どころと言えますね。
『開栓日誌』7巻	朝5時までって、その体力がすごい。しかもずっと隣には夫が眠っていた。雰囲気が違ってるでしょう。なんで気が付かないの。ここまでくると、気づかない拓也がかわいそうっていうよりもしっかりしろよとどやしつけたくなります。そして翠。電気がずっと点滅を繰り返すって、嫌すぎる。ついに翠の側からとなりますが、これからどうなるのでしょう。
『開栓日誌』7巻	この回では、冬馬と翠の距離が縮まりそうなシーンが多くてワクワクしました。今のところ冬馬が一番攻略できていないキャラクターが翠なので、どんな方法で攻略していくのか楽しみです。拓也の奥さんと冬馬の関係性は相変わらずで、どんどん大胆になっているので、そのうち旦那さんにバレるんじゃないかとヒヤヒヤしながら読んでいました。
『開栓日誌』8巻	2万円分しゃぶらせられて、そりゃ冬馬のこと嫌いになって当然ですよ。でも家のチカチカが治らない以上はもう一度呼ぶしかない。でも今度はさっさとやるべき仕事を終わらせて去っていこうとしている。となるとそれはそれでまた気になるんですよね。お礼にビールをふるまうなんて、やっぱり男女の関係は推してダメなら引いてみろという作戦勝ちですね。
『開栓日誌』8巻	プライドの高い翠が陥落する感じが最高でした！実際にはそういう行為をしているわけではなく夢オチではあるのですが、読者側からするとドキドキ度はそう変わらないのでOKです。個人的にこの手の漫画の中でも翠のキャラがすごく好きなので、特に好きなお話になりました。

『開栓日誌』9巻	冬馬にかなり当たりの強い様子を見せた翠ですが、あとになって冬馬のことがどんどん気になってしまうのが注目ポイントです。やはり冬馬はどんな女性でも虜にする魅力があるようです。翠はいかにも気が強そうな女性なので、冬馬のことを好きになっても、プライドが邪魔をして告白とかはできないんじゃないかと思っています。そんな二人の関係性にこれからの期待が高まります。
『開栓日誌』9巻	詰まり解消に失敗。これまでにない展開です。やはり無理やりだといけないのか。とはいえ、体のおもだるさは消えているのですから途中まではいい感じになってたということか。でも開栓まで至っていない体は完全とは言えずほてりを感じる翠。そしてしょうがなく自分でって、いったいどこでやってるんですか。とにかく色っぽくてドキドキ。
『開栓日誌』10巻	翠は冬馬に好意を持っているけれど、冬馬はいろんな女性と遊んでいるという切ない関係性が印象に残りました。さらに今回は、冬馬の子どもみたいなイタズラシーンがあったりして思わず笑ってしまいました。今のところ冬馬がメインで狙っているのは拓也の奥さんのようですが、近所の人たちに噂されたりもしているので、バレるんじゃないかとヒヤヒヤしながら楽しみました。
『開栓日誌』10巻	詰まりが解消された拓哉の奥さんの変化がすごい。こんなの見せられると、自分も冬馬に開栓してもらいたいかもなんて思えてしまいます。それにしても、ご近所から声の大きさを指摘されるってどれだけの声なのか。聞かされる側としては確かに嫌ですよね。一方で拓哉はというと、何をしてるんですか。自分のを残すって最低すぎる
『開栓日誌』11巻	まだ冬馬の本当のところを知らないでいる小紅。冬馬がいい男って、開栓なんて言いながらとにかく見境なしですから女性ならばとにかく関わり合いにならない方がよいでしょう。ただ、誰でもいいって感じでもなく冬馬は翠のこと、結構気にかけているみたいですね。夏季休暇でいなくなった翠に寂しそうな表情を見せる冬馬。一方で東京を満喫している翠。二人の対比が面白い。
『開栓日誌』11巻	冬馬と翠の関係性に小紅が感づいていて、どんどん二人の真相に迫っていくところにドキドキしました。翠は否定していましたが、表情からもだいぶ焦っているのが伝わってきました。その一方で冬馬は別のトラブルに遭遇したり、ハチャメチャなエピソードが多くてその分見どころもたくさんありました。それぞれの抱えている問題がこれから大きくなっていきそうなので、不安と同時にワクワク感も感じられます。
『開栓日誌』12巻	自分の勝手な価値観で評価を1にしたり、そういった客もいるのですから世の中を渡っていくのは大変です。ちゃんとしたまともな友達もいるのになんでそんなことに、やっぱりこれも詰まりが原因なんでしょうね。それにしても、トイレに汚物を残してって、女性がやる仕返しとしては下の下でしょう。やばすぎる。脚をなめだす冬馬もヤバイけど。
『開栓日誌』12巻	今まで秘密にしていたはずの冬馬と拓真の奥さんの関係性が、ついに周りにバレ始めたのではないかという衝撃の展開が見どころとなっています。確かに二人は調子に乗ってどんどん先に進んでいたので、バレてしまうのも無理はないなと思いました。拓真も怪しんでいる様子なので、冬馬たちに対してどんな行動を起こすのか目が離せなくなりました。
『開栓日誌』13巻	子供が横にいるのに、そんな中でって。背徳感半端ないですが、むしろそれが恋のどきどきに代わってしまい燃え上がってしまうのですから困ったものです。それにしても、やっと奥さんの名前もわかりましたね。変わらずやってくる冬馬。そして結局は彼のことを拒み切れないでいる奥さんの美智子さん。このままどうなってしまうのか続きが気になります。
『開栓日誌』13巻	冬馬のやりたい放題っぷりが今回も遺憾なく発揮されていたのですが、ついに女性に怒られるシーンもありつつ、こりてない冬馬が面白いです。拓哉の奥さんとの関係もまだ終わらせる気がなさそうですし、冬馬の欲は尽きることはないのでしょうか。しかし、後半では何やら不穏な空気が漂い始め、冬馬と拓哉の奥さんの関係性がバレそうな感じがしてドキドキしました。
『開栓日誌』14巻	母乳が出なくて困っているママたち、いっぱい世の中にはいるでしょう。冬馬に開栓してほしいような気もするけれど、若い男性にとってこれって絶対に夫は良しとしないでしょうね。浮気の一歩手前というかグレーゾーンです。そんな冬馬が気になっている翠。はじめはけんもほろろな対応でしたがちょっとずつ変わっていってますよね。雪解けも近いのか。
『開栓日誌』14巻	もはや当たり前のようになっている拓也の奥さんとの行為。最初はちょっと罪悪感を覚えることも

	あったのですが、この頃になるとなんだか慣れっこになりました。というより、奥さんが明らかにスッキリしているのが見えて笑ってしまいます。いろいろな詰まりが取れたのか、母乳の出が良くなっているところがタイトル回収という感じがしますね。
『開栓日誌』15巻	自分から冬馬をご飯に誘ってくる翠。会社でも何かと彼のことを気にしているし。ついに落としたなといった感じで、感慨深いものがありますね。ちょうどそんなときに出張に行ってしまう。突然、冬馬が手が届かないところにって、その演出ナイスです。ただ、クレームをつけた女性と翠が同級生ってのが判明して、そこからどんな風になるのかは気になるところです。
『開栓日誌』15巻	冬馬と翠の過去が明らかになる、個人的にはかなり重要な回です。今までも翠の反応や態度を見て、もしかしたら…？と思ったことはあったのですが、やはり二人には過去に接点がありました。それも、なかなか近い接点です。確かに過去に接点があったとしても、年月が経てばお互い見た目も変わるしわからないのも仕方ないと思います。二人の過去が明らかになったことで、ますます今後の二人がどうなっていくのか楽しみになる巻でした！
『開栓日誌』16巻	勝手に人の電話に、しかも異性からの電話に出ちゃうなんてさすがにこの冬馬の行為にはドン引きです。そんな彼、労働組合に呼び出しを食らって。これからどうなるのか気になるところですね。それにしても、翠の体の違和感とはどういうことなのでしょう。調べるために近所のおばさんを使うって、おばさんもかわいそうなんですけど。
『開栓日誌』16巻	冬馬が労働組合から呼び出されるなど、結構シリアスな展開が目立ったエピソードでした。そして冬馬は翠に対する不思議な違和感も抱えていたりして、この違和感の正体が何なのかも気になります。翠は冬馬のことを気にかけているようですが、同時に怪しんでいるのも伝わってきます。そんな二人の関係性が、これからどう変化していくのか期待しています。
『開栓日誌』17巻	男女の関係ってなかなかうまくいかないものなんですよね。若い男性に足のマッサージを頼むなんて翠さんとっても積極的。しかもこんな美脚をさらしてくるのですから、男性なら誰しもそのまま先へ先へと進めていきそうなものです。なのにまさか途中でやめて帰っちゃうとは。冬馬どうしたの。これまでと違う冬馬の様子も見どころです。
『開栓日誌』17巻	翠が冬馬に好意を寄せていくと、逆に冬馬はそっけなくなるという切ない関係性が印象に残りました。冬馬は追いかけられるより、自分から追いかけていきたいタイプなんだと思います。そして今回も冬馬のマッサージ能力の高さが遺憾なく発揮されていて、翠がとても気持ち良さそうにしてるのが伝わってきました。冬馬のこの能力は、まさに天賦の才だと思います。
『開栓日誌』18巻	冬馬がずっと書き続けていた開栓日記が、タイトルにもなっているこちらが見つかった。そしてほかの人に見られてしまった。象徴的な巻ですね。いろんな女性とかかわりそれを日記に記してるって、なかなか悪趣味です。そしてこちらの巻ではいろんな女性が実際に出てくる。翠に美智子、女性の友達とこれからどうなっていくのかこちらも楽しみです。
『開栓日誌』18巻	タイトルにもある「開栓日誌」が登場し、伏線が回収されたような気持ちよさが味わえました。冬馬の開栓日誌を見た翠が、これからどんな行動を起こすのか注目していきたいです。その一方で拓也と奥さんの関係性の変化も描かれており、この二人の間に冬馬がどう関わってくるのかワクワクします。これまでのエピソードに比べて、今回はわりと平和で落ち着いて読んでいられました。
『開栓日誌』19巻	前半はクレームを入れてきた莉奈のところへ冬馬が行き、何かイベントが起きるかと思いきや何事もなく終わったのが意外でした。そこで冬馬は拓也の奥さんを呼び出すあたり、自分の都合よく利用しているのがよくわかります。しかし拓也の奥さんもまた子どものお世話のために帰ってしまったり、冬馬の計画がどんどんダメになっていく様子が面白いです。普段やりたい放題してるからこそ、そのツケが回ってきてるように見えました。
『開栓日誌』19巻	のどの詰まりをどうにかしようとしたらちょうど莉奈が戻ってきたり、美智子の場合も子供が泣いているからと途中辞め。なんだかんだでうまくいっていた冬馬ですがこちらの巻ではなかなかうまくいかない。一緒にもやもやしちゃいました。そんな体のままに翠と備品庫に二人っきりって、学校の体育倉庫で二人っきりのオフィスバージョンですね。

『開栓日誌』20巻	詰まりを取るというのがこの漫画のメインテーマなわけなのですが、では主人公の冬馬はどうなのでしょうか。冬馬は決して万能タイプな主人公ではありません。スタートは結構スーパーマンみたいな雰囲気もありましたが、精神的にもぶれちゃったりする普通の男性としての側面もあります。そういった冬馬自身の詰まりにフォーカスが当たるのは、個人的には面白い展開だなぁと思いました。
『開栓日誌』20巻	ずっと詰まりを解消するために動いていた冬馬でしたが、まさか自分が詰まるとは。詰まりを直す日々を送っていても医者の不養生という言葉もありますがそうなることってあるんですね。詰まり解消のプロがまさか自分で自分のをとはいかないでしょう。ブラックジャックではないのだから。となると解消するのはやはり翠の仕事となるのでしょうか。
『開栓日誌』21巻	１０年付き合ってきてようやく結婚。普通だとうらやましい限りですが、どうやら小紅にとってその結婚は望まぬものみたいです。ですが父親が厳しいから仕方なく。クッションのにおいをかぐことで気が付く冬馬がすごいというか変態チックというか。小紅メインでいくものの、東京の不動産会社に騙されて路頭に迷う翠の方も気になります。
『開栓日誌』21巻	一番の感想としては、結婚するんだー！というのが驚きでした。でも、このまま幸せになってほしいです。個人的にはやっぱり翠さんがこの場にいてくれたらなぁと思うのですが、こればかりは仕方ないですね。しかし、結婚するのにあまり幸せそうには見えない小紅さん。そこで主人公が活躍する場面がやってきました。小紅さんが結婚する相手は長年付き合っている相手で、冷めきっている相手と結婚することになるわけです。そんな小紅さんの詰まりにフォーカスが当たる巻でした。
『開栓日誌』22巻	冬馬は小紅に好意を持っていて、翠は冬馬に好意を持っているという切ない三角関係が今回の見どころだと思います。最初は冬馬のことをあんなに嫌がっていた翠が、まさかここまで冬馬を追いかけるとは思いませんでした。小紅も結婚することが決まっているので、冬馬と関係を持ってはいけないはずですからこの二人がどうなってしまうのかドキドキです。
『開栓日誌』22巻	男性と二人っきりでお酒を飲みに行って、結婚はしたくない・何か事件が起きて結婚がなくなってほしいなんて愚痴るなんてもう脈ありまくりじゃあないですか。とはいえ、そう簡単に開栓させてはくれない小紅です。酔っぱらっていたはずなのにちゃっかり逃げ出して。小紅さんすごい。ただ、冬馬もなかなかのもの。ついに家を探り当てられて、これからどうなっちゃうんでしょうね。
『開栓日誌』23巻	両親もいる自宅にて、自分の部屋にこもってこっそり。ドキドキが半端ありません。小紅と一緒にこっちもドキドキしちゃいました。それで結局最後までやっちゃって、冬馬の心臓が強靭すぎる。それにしても、部屋のドアが開いてるにもかかわらずやっちゃってますよね。ばれたって別にいい。むしろ気づかせたい。そう思ってるからこそ堂々としてたのでしょうか。
『開栓日誌』23巻	このエピソードは、冬馬と小紅の関係性がメインとなっているようですが、冬馬はあくまでも遊び相手として小紅の相手をしているような感じがしました。さらに二人の関係が親にバレてしまいそうになるドキドキのシチュエーションもあり、ここは最大の見どころではないかと思います。冬馬はそんな状況も楽しんでいて、なかなかぶっ飛んでいるなと再認識させられました。
『開栓日誌』24巻	莉奈と翠がつながっていて、動ける範囲内で活動をしているとどうしてもこんな感じで意外なところで実は知り合いだったってのが出てきますよね。次々と女性の開栓をしている冬馬ですが、いつどこで転落につながらないとも限らない綱渡り状態です。

『開栓日誌』24巻	意味がわからないのが面白いので、ついつい買ってしまう（笑）そして、また気になるので買う連鎖にはまっていますー！ストーリーが面白いので次が気になってしまう。女性の描写が絶妙でついつい見惚れてしまうシーンもあり気になる作品の一つになった。まず絵がきれいです。ストーリーはやや強引なところももちろんありますけど、1回1回ではなく話が続いていくのがおもしろいですね。どうなるんだろう？と思いながら楽しみにしています。
『開栓日誌』25巻	東京からやってきたイケメン支店長。東田京佑って、そのまま東京だし。ネーミングに笑ってしまいました。わかりやすくていい。ただのイケメンではなさそうです。綱渡り状態だった人間関係、彼によって思いっきり引っ掻き回されそうで期待できますね。イケメンだけど性格悪そう。親しめるキャラではなくいらだちも引き起こしそう。
『開栓日誌』25巻	今回から新しく登場した支店長の京佑ですが、まだ謎に包まれているからかわかりませんが、どこか怪しい雰囲気を感じます。冬馬もそんな彼をライバル視しているようで、緊張感が高まっていく様子にドキドキしました。新しい登場人物が増える度に人間関係が複雑に絡み合っていくのがこの作品の特徴なので、これから先がもっと楽しみになりました。
『開栓日誌』26巻	前話で新しく登場した支店長は今回でてきませんでした。あの支店長との三角関係も早く進んでほしいですが、どうなるかワクワクしています。 もしかしたら冬馬が莉奈の友達のところに仕事に行っている間に、翠と支店長は急接近しているかも。そうなると冬馬の嫉妬もますますひどくなりそうです。
『開栓日誌』26巻	これまでの大人向けのシーンの中でも結構上位に来るくらいお気に入りのシーンでした。特に冬馬が足で触るシーン。あの描写はなかなかくるものがありますね。このまま先もしてしまうのか気になります！
『開栓日誌』27巻	翠を見る姿とか、開栓しているときの顔とか何を考えているのかまったくわかりません。というより何をしたいのかわからない状態です。そろそろ冬馬には突拍子もないことをしでかしてほしいですね。
『開栓日誌』27巻	人見知りでちょっと変わった彼氏を持つ女の子ですが、非常に濃いシーンでした。なぜこんな関係になってしまったのか、机においている彼氏はなんなのかなど、気になるところも多いです。次の28巻はそろそろ物語が大きく動いてほしいです。
『開栓日誌』28巻	最近はあまり変な行動をしなかった冬馬ですが、久しぶりにやってくれました。まさか小紅のドレス選びにまでついていくとは。何食わぬ顔でドレスを選ぶ冬馬がシュールです。
『開栓日誌』28巻	自分は何を見せられているのか、そんな気持ちになりました。おもちゃが喋りだしていたのは、まちがいなくカンナの妄想でしょうが、相当やばいですね。ずっとおもちゃに話しかけてるとか怖すぎでしょう。
『開栓日誌』29巻	急に結婚式当日の予行練習を、今している自分たちの行動に当てはめてしていく様子に笑えました。ドキドキするというより、もはやギャグです。そもそもドレス選びに冬馬が来ている時点でおかしいですし、スタッフにバレたらさらに面白い展開になりそうです。
『開栓日誌』29巻	小紅は冬馬とすることで、結婚に対する自分の気持ちがどんどん明確になっていっているようです。これはおそらく、冬馬の開栓の影響なのでしょう。ただ、結婚を望んでいるのか、望んでいないのかははっきりとわからなかったので、どっちなのかが気になりますね。
『開栓日誌』30巻	ただの支店長なのに偉そうにしすぎてて不快ですね。こんな人間だから翠からも見向きされないのでしょう。妻がいるようですが、この支店長がどんな詰まりを抱えているのか気になります。
『開栓日誌』30巻	支店長がアプローチしてきていますが、翠は全く興味がないようですね。どんどん翠の詰まりがたまっていく一方です。早く冬馬が開栓したほうが　良さそうです。そんな冬馬は支店長の情報を集めていましたが、はたして何をしようとしているのか。突拍子もない展開になるのを期待します。
『開栓日誌』31巻	冬馬との開栓をしていますが、カンナの彼氏がおもちゃなのか変わらないのでしょうか？大量にある玩具をいつ手放すのか気になりますが、果たして開栓中に莉奈と遭遇することでどうなるのか楽しみです。

『開栓日誌』31巻	冬馬と莉奈の開栓のシーンで、ずっと近くにおもちゃを置いていますが、あれいりますか？前から開栓シーンでずっとおもちゃを置いていますが、そろそろカンナのおもちゃ離れの時期なのかも。あと、莉奈が意外と友達想いなのが意外でした。
『開栓日誌』32巻	まさか冬馬がお客さんとして莉奈の元へ行くとは。さらに脅すようなことまでして、何がしたいのかわかりません。以前、莉奈にされたことに対する仕返しでしょうか？それにしても、冬馬の行動が本当にわからなくなってきました。
『開栓日誌』32巻	冬馬にいじられてしまった我慢している莉奈が可愛かったです。莉奈に触れたことで、どんな詰まりがあるのかわかったのかが気になります。これから莉奈をどのように攻略していくのか楽しみです。
『開栓日誌』33巻	冬馬がドアのチェーンのようなものを引きちぎるシーンには笑いました。この漫画、結構こういうぶっ飛んだ描写が多いんですよね。大人向けのシーンだけでなく、普段のシーンでもこんなシーンが増えてもいいかも。今回も笑かせてもらいました。
『開栓日誌』33巻	よくあのいけ好かない支店長をやっつけました。というより、本当の翠を見せただけなのでしょうが、潔癖すぎる支店長にはきつかったようです。あれだけで翠のことを諦めるとか、支店長もたいしたことないですね。そして、久しぶりの翠はやっぱり魅力的です。
『開栓日誌』34巻	久しぶりの翠と冬馬のシーンです。すぐにしまくるのではなく、少しずつ焦らし合うようにしてくのが良かったですね。支店長に思わせぶりな態度を取っている翠も魅力的です。
『開栓日誌』34巻	これまでいろんな女性とのシーンがありましたが、やっぱり翠が一番いいですね。シャツ姿にだけでもドキドキできました。そして、そろそろ支店長とは関係を切ったほうがいいのでは？思わせぶりな態度をずっと取っていますが、そんな気持ちは一切ないでしょうし。
『開栓日誌』35巻	テレビに映る二人を映画を見てるみたいだと表現するのがすごく良かったです。本当にテレビに映っているようで、あの描き方は他の漫画にはないなと感じました。普通に見るよりもドキドキできますね。
『開栓日誌』35巻	濃いです。今までずっとしてこなかっただけに、1話丸々使って描かれていて満足感がありました。小紅や近所の奥さんなど、いろんな女の子が登場しましたが、やっぱり翠が一番ですね。
『開栓日誌』36巻	前も小紅のときにしながら、結婚式の予行練習をしていましたが、今回は翠と東京観光の予行練習をしていました。ほんとこれ、どういうことなんでしょうね。置くまで入ったことを東京に到達したことに例えているんでしょうが、あまりあまり上手いとは言えない例え。
『開栓日誌』36巻	これまで溜まっていたものを解放するようにひたすらし続けていますね。これだけ相性がいいんだから、もう付き合ったらいいのに。翠も無駄なプライド持ってます。翠自身、東京に馴染めていない田舎者なんだから、田舎者同士、お似合いだと思いますけどね。都会より田舎のほうがいいですよ、実際は。
『開栓日誌』37巻	なんか冬馬の周りの女性との関係を一気に断ち切ったように思えます。新しく莉奈にも接触しましたが、これも次の話では開栓が完了するのではないでしょうか？なんだかそろそろ物語が終わりそうな気がします。
『開栓日誌』37巻	え、ここで冬馬とくっつくんじゃないですか？これまで明らかに支店長のことを避けていたのに、急にそんな関係になるじゃないですか。冬馬が何を考えているのかもわからない。東京に行ってなにをするんでしょうか。
『開栓日誌』38巻	なんだか、どんどん冬馬が気持ち悪くなっていく気がします。元々気持ち悪かったのかもしれませんが、大した理由なく、女性をターゲットにしていくのはただの犯罪者です。
『開栓日誌』38巻	冬馬はただしたいだけなのでしょうか。当時は開栓という治療行為に似たもので、女性の問題を解決していましたが、今はそんな素振りはほとんどありません。小紅は結局嫌だった結婚をしてしまっているし、翠は開栓できたのかもわかりません。冬馬自身の栓もよくわからないし、ストーリーがどこに向かっているのかわからない。考えすぎなのでしょうか。
『開栓日誌』39巻	39巻はなかなか良かったですね。翠は支社長とラブラブになっているのかと思っていたんですけど、まさか嫌々付き合っていたとは。完全に冬馬に入れ込んでいますし、そろそろ関係も次のス

	テップに発展しそうです。
『開栓日誌』39巻	今回はすごく翠が積極的でした。変な例えもないですし、これまでで一番見ごたえのあるシーンだったかもしれません。特に一番最後のページの翠にはドキドキしました。服の着崩し方というか、着衣の良さを最大限引き出していると思います。
『開栓日誌』40巻	前々から、翠と大判は同級生だという話がありましたが、翠の彼氏を取っていたとは思いませんでした。元々友達だったのか、ただの同級生だったのかはわかりませんが、いい関係ではなさそうですね。あと、あのタバコの吸い方なんなんでしょうか？ちょっと笑いそうになりました。
『開栓日誌』40巻	久しぶりに登場したおばさんですが、結局冬馬にとってどんな存在なのか気になります。おばさんが旦那を探していて、その旦那が冬馬のお父さんだとすると、親子関係ですよね？冬馬は母親ともしてるんでしょうか。近所のおばさんというふうにも見えません。もしかしたら義理の母ということも考えられますが、次の話で判明するのか楽しみです。
『開栓日誌』41巻	おばさんが冬馬の義理のお母さんであることがわかりましたが、それ以外にも父親や義理の妹の存在も明らかになりましたね。今後父はでてくるでしょうが、個人的には義妹の梓ちゃんがどこにいったのかが気になります。きっと美人になっているはずです。あと、冬馬が子供の頃は意外といいお兄ちゃんをしていたのが驚きです。
『開栓日誌』41巻	帰ってくるはずがないのに、ずっと帰ってくるはずのない冬馬の父を待ち続ける。お酒に酔っていたとはいえ、冬馬を冬馬の父と勘違いしていますし、相当精神的に追い込まれていそう。朝になって、義理の母は正気に戻ったのでしょうか。この辺の人間関係も今後気になるところです。
『開栓日誌』42巻	あれほど冬馬を嫌っていた莉奈がここまで変わるとは驚きです。何が莉奈をここまで変えたのかが気になります。単純に冬馬の開栓が良かったから、という理由だけでしょうか。それとも、冬馬のお陰で、お客様満足度が上がったからでしょうか。
『開栓日誌』42巻	莉奈が冬馬に急接近したことで、翠が嫉妬みたいな感じになっているのが面白いですね。そもそも支社長といい雰囲気になっているのは自分なのに、冬馬に嫉妬するのは違うでしょう。それならもっと冬馬にアピールしにいったらいいのに。これは新しい三角関係ができましたね。
『開栓日誌』43巻	支社長が小物過ぎて終始笑えます。たいしたことないのに、無駄にプライドが高い人間っていますよね。ビールをゴミ箱に捨てるとか非常識だし、スプーンで栓を開けれるから何？って感じです。あれは一緒にいる女性も可哀想。翠がなぜあんな小物と一緒にいるのか疑問で仕方がないです。
『開栓日誌』43巻	支社長は冬馬にマウントとろうと必死だし、翠と莉奈も元々中が悪いので、バチバチです。そんな中、流されるまま一緒にいる冬馬が面白いです。なんだか翠もどんどんイイ女からは遠く離れてしまっている気がします。これは莉奈が正ヒロインということでいいかもしれませんね。
『開栓日誌』44巻	理由はさておき、翠はやっぱり支社長と本気で付き合っていなかったんですね。支社長が気の毒だと思うところでしょうが、そもそも性格が良くない男性ですし、ザマァ見ろとしか思わなかったですね。これで、支社長が変な行動に出ないかが心配です。
『開栓日誌』44巻	とうとう翠があの男から離れそうです。そうなると、冬馬・翠・莉奈の三角関係が本格的に始まりそうです。これまで、翠は自分の本音を隠してきましたが、とうとう正直に冬馬にアピールしていくのでしょうか。莉奈がどこまで冬馬に本気なのかも気になるところです。冬馬は翠のほうが好きでしょうけどね。
『開栓日誌』45巻	冬馬が最後に言っていた、失くしたものとは何なのでしょうか。これまで、冬馬にも詰まりがあるような描写がありましたし、冬馬自身が開栓される展開も近いかもしれませんね。ただ、それは莉奈ではなく、翠がしそうな気はしますが。
『開栓日誌』45巻	個室とはいえ、ここまで長時間サービスをしていて、周りのマッサージ師は気づかないものでしょうか。もはやマッサージではありませんが、されている冬馬が羨ましい。莉奈は翠並にスタイル抜群ですし、冬馬が誰を選ぶのか楽しみです。
『開栓日誌』46巻	ようやく嫌な性格をした男がいなくなりますね。冬馬は無理やり支店長にやり返すことにしましたが、その後、立場上悪くならないかが心配です。とはいえ、支店長は妻がいつ身で翠に手を出し、さらにDVまでしたのですから、それがバレればまずいでしょうし、もう大人しくしそうですね。

『開栓日誌』46巻	結局これは一件落着なのでしょうか。確かに、もう支店長が手を出してくることはないでしょうが、冬馬はずっと莉奈と遊んでいたわけです。翠がフリーになったことで、冬馬はまた翠にアプローチをかけると思いますが、そうなると莉奈が可愛そうですよね。この三角関係もいつまで続くのか気になります。
『開栓日誌』47巻	犬猿の仲って感じだと思っていたんですけど、莉奈と翠って意外と仲が良かったんですね。お葬式の場面では、他のクラスメイトは来ていたのでしょうか。あの感じだと、莉奈以外のクラスメイトは来てないっぽいですよね。翠は良い子だと話しているし、莉奈はやっぱり面倒見が良いのかもしれません。
『開栓日誌』47巻	大人向けの描写ばかりでしたが、今回は物語が中心でしたね。これは物語が進みそうな予感がします。そろそろ冬馬のお父さんが出てきてもおかしくなさそう。50巻くらいで一気に物語が進むのではないでしょうか？
『開栓日誌』48巻	莉奈とカンナの二人が仲直りしたと思ったら、冬馬が帰ってきちゃいました。カンナが本当のことを打ち明けても、莉奈は信じないと思ったのでしょうか。そこまで冬馬が考えているとは思えませんし、カンナが頼んだのかもしれませんね。
『開栓日誌』48巻	まさかの寝ているところに冬馬が乱入。二人の女性と交互にしているシーンはドキドキさせられました。カンナがしているときの、莉奈の表情もいいですね。次の話で莉奈がどんな反応をするのか楽しみ。気づいているけど、気づいていないふりをするかもしれませんね。
『開栓日誌』49巻	冬馬が東京に行ったと思ったら、まさか支社長の家を訪ねるとは思いませんでした。しかも、支社長がいない隙を見計らって、奥さんだけのときに行くなんて。これから、支社長の奥さんの開栓を始めるのでしょうね。冬馬が何を考えているかはわかりませんが、支社長に逆襲でもしようというのでしょうか。
『開栓日誌』49巻	結局、莉奈とカンナのくだりはなんだったんでしょうか。あの後二人はもとの仲の良い友だちに戻ったのでしょうが、もう少しその後の描写がほしかったですね。そして、その後に冬馬の休暇。休暇中のあの服を着ているのは謎ですが、冬馬らしいと言えばそうですよね。次の展開が気になります。
『開栓日誌』50巻	相変わらず、いつものやり方で冬馬は次の女性に迫っていきます。今回は支店長の奥さんですが、潔癖症の女性をどう攻略していくのか楽しみです。ところで、一緒に連れて帰ってきた支店長はどこにいるのでしょうか。鈍感そうなので、奥さんが襲われていることには気づかないでしょうけどね。
『開栓日誌』50巻	東京まで来てやることは一緒です。これまでいろんな女性を開栓してきましたけど、これって終わりはあるのでしょうか。開栓が終わったらまた次の開栓へ。いろんな女性が出てくるのはいいんですけど、そろそろ冬馬についての深掘りもしていってほしいですね。
『開栓日誌』51巻	支社長の奥さんとのシーンはドキドキできるんですけど、それ以上に冬馬が誰を探しているのかが気になりました。不動産屋をしていたということは、会社関係の人ではないでしょう。支社長と奥さんの居場所はわかっていますし、これ以上会社の人を捜索する理由もありません。そうなると、一番の有力候補は、冬馬のお父さんでしょうね。東京で不動産業をしていたのでしょうか。まだ手がかりはありませんが、そろそろ見つかりそうな気もします。
『開栓日誌』51巻	支社長の奥さんである清香も、非常にスタイルが良くていいですね。翠ほどスタイルが良いわけではないですが、ほどよい感じが逆にリアルです。特にお風呂で座り込んでいるシーンとか好きです。
『開栓日誌』52巻	だいぶ冷めた関係の二人でしたが、冬馬が清香を汚すことで、二人の夫婦関係が改善されそうな気がします。二人にとって、清香が潔癖すぎるところがよくなかったでしょうし、それがなくなるだけでラブラブになるのかも。支店長は浮気をしなくなって、皆ハッピー的な感じになりそうです。冬馬と支店長の関係も少しは良くなるかもしれませんね。
『開栓日誌』52巻	清香のミステリアスというか、不思議な雰囲気がいいですね。これまでの女性と全く異なるタイプで、一番好みかもしれません。潔癖なのは勘弁ですが、それ以外は完璧ですね。

『開栓日誌』53巻	相変わらず大胆な冬馬が面白いですね。皿が割れた瞬間、どうやって冬馬は隠れることができたんでしょうか。バレないようにしゃがんで回り込んだ感じですかね。その間、ずっとズボンを履かずにいたと思うと少し笑えます。大胆だけど、やっぱりバレるのはまずいんですね。
『開栓日誌』53巻	ちょっと話の進みが遅い感じはしますね。これまでもそうでしたが、冬馬が何をしたいのかがよくわかりません。ただしたいだけなら、支店長のいない時を見計らって家に入ればいいだけですからね。清香はすでに冬馬に心を少しだけ許してそうですし、支店長がいないときなら好き放題できそう。
『開栓日誌』54巻	そもそも、なぜ潔癖な清香が冬馬に惹かれているのかがわかりません。開栓したとはいえ、これまで以上に冬馬に惹かれている理由がわかりませんし、そもそも家の中にあんな不審な人物を入れるとか意味がわからない。しかもそもそも清香は潔癖ですし、それがあんなにすぐに変わるものなのか疑問に感じる。
『開栓日誌』54巻	東京に来ているとはいえ、やっぱり翠が可愛いですね。無防備な姿で、あんな女性がいたら他の女性になんて目移りしなさそうですけど。冬馬が帰ってきたらどうなるのかも楽しみ。
『開栓日誌』55巻	清香が潔癖になった理由って、支店長の浮気なんでしょうか。それとも、ただ単に汚かったからでしょうか。おそらく前者なんでしょうが、それだと今は清香が浮気していることになりますよね。清香も支店長と同じ立場になることで、開栓が完了するという流れになるのでしょうか。
『開栓日誌』55巻	日をまたいでいますが、冬馬はずっと清香の家に潜んでいるんでしょうか。一度機会を失ったからといって本当に冬馬はしつこすぎますね。しかも、律儀にズボンのチャックはおろしたまま。次はどんなとんでもない行動を見せてくれるのかが楽しみです。
『開栓日誌』56巻	まさか、支店長がパンツを裏返していたことを、清香が同じようにしてしまうとは思いませんでした。まさかの展開で、次の話がちょっと楽しみになりました。支店長も清香の浮気に気づくのかな。気づいた後にどんな関係性になるのか楽しみです。
『開栓日誌』56巻	酒を飲んでいたわけではないし、さすがにあんな真横でしていたら気づきそうなものですけどね。とはいえ、大人向けのシーンはなかなかに良かった。抱きかかえながら移動するのもいいですね。
『開栓日誌』57巻	ここまで大胆な行動に出るとは思いませんでした。清香って、ちょっと控えめというか、自分の考えを表に出せない感じの女性なのかと思っていました。ただ、立場としては支店長よりも清香の方が上なんですね。もし清香と離婚してしまったら、会社にいられなくなってしまうとかでしょうか。そのへんの事情も気になりますね。
『開栓日誌』57巻	まさかの支店長の前で始めてしまうのは思わず笑っちゃいました。冬馬を殴り飛ばしたいけどできない。これまで横柄な態度を取っていた支店長がまさかの情けない姿を晒します。これで関係改善は無理でしょう。このまま離婚かな。
『開栓日誌』58巻	これは一件落着と言っていいのか、結局開栓することで、関係改善ができたのならよかったのかもしれませんね。ようやく冬馬が帰ってきましたが、髪の毛を綺麗さっぱりしたことで、物語も少し転機を迎えそうな気がします。
『開栓日誌』58巻	これは支店長、新しい趣味に目覚めてしまいそうですね。今後は妻を奪われるような状況じゃないとドキドキしなくなるかもしれません。そうなると、今後も冬馬にはおせわになることでしょうね。まぁ東京なので、もう二度と会わないかもしれませんが。

漫画全巻の部屋
by ㈱グリュックス